

小松島港みなとまちづくり事例分析に見るみなと再生方策の考察

A Study of Renewable Port-Measures, in the Case of Komatsushima , in Tokushima Pref. *

花岡史恵**、澤田俊明***、田村聡子****、山中英生*****、高木利記*****、武田将英*****

By Fumie HANAOKA** Toshiaki SAWADA*** Satoko TAMURA****

Hideo YAMANAKA***** Toshiki TAKAGI***** Masahide TAKEDA*****

1. はじめに

本州四国連絡橋の開通や高速道路等の整備に伴い、近年、関西及び中国・四国地方においては海上交通から陸上交通へと大きく運輸サービスが転換した。その結果、これまで海上交通と密接な関連を持った港湾施設の遊休化が、多くの港湾地域で顕在化した。徳島県内の主な港湾遊休化施設としては、小松島港に位置する小松島市・旧南海フェリーターミナルビルや徳島市・マリンターミナルビル等が挙げられる。これら港湾空間の遊休化施設の再活用は、現在の厳しい経済情勢のもと、工業および商業的活用への対応では限界にきており、今後、より一層、港湾空間において新しい価値観の創出が求められるようになってきた。

一方、市民参画型社会構築の実現にむけた市民意識・行政意識の高揚・醸成に伴い、市民主体・市民発意によるまちづくり・福祉・環境保全等の活動が、近年確実に成果を挙げてきた。小松島市・徳島市においても、遊休化した港湾施設の活性化を目指して「港づくり NPO」が活動を始めており、港湾空間の再活性化を図る上で、より一層、市民活動の効率的活動の進展と支援が、重要かつ必要となってきた。

本研究では、小松島港における NPO を核とした市民・行政協働による、遊休化施設の再活用を主と

する「みなとまちづくり」の事例分析を行い、みなと空間再生プロセスの知見を得ることを目的とする。

2. みなと再生のプロセス

みなと再生方策の推進は、従来の「実体（ものづくり・プランづくり）のデザイン」の段階で終わるのではなく、「利用・活動・雇用のデザイン」「人づくり・組織づくりのデザイン」「維持管理・リスク管理」「参加・場のデザイン」にも着目した【参加型社会資本整備の視点】¹を持って、取り組みを進めることが望まれる。そして、これらのみなと再生方策の活動プロセスは、大きく分けて「第1期：ビジョン作成時」「第2期：活動立ち上げ時」「第3期：活動継続時」の3つに区分することができる。参加型社会資本整備の視点と推進イメージを図1に、みなと再生のプロセス区分と再生方策の概要を表1に示す。

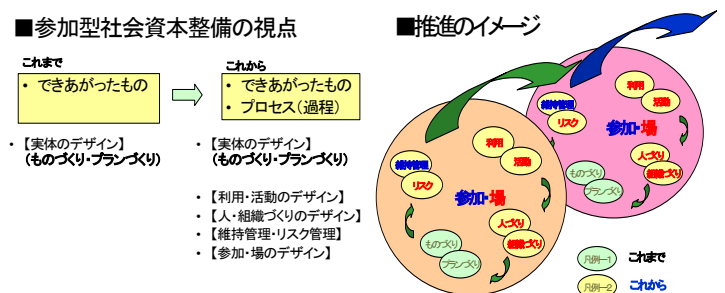


図1 参加型社会資本整備の視点と推進イメージ

表1 みなと再生のプロセス区分と再生方策の概要

再生プロセスの区分	再生方策の概要
第1期：再生ビジョン作成時	現状把握、課題整理、まちづくりビジョン作成・共有、参加の場づくり（利用・活動づくり、人づくり・組織づくり、プラン・仕組みづくり）
第2期：再生活動立ち上げ時	具体活動プランづくり、まちづくり活動着手・社会実験等、体制（利用・活動づくり、人づくり・組織づくり、プラン・仕組みづくり）
第3期：再生活動継続時	継続的活動の取り組み（利用・活動づくり、人づくり・組織づくり、プラン・仕組みづくり、維持管理、リスク管理）

* キーワード：地域都市計画、市民参加、みなとまちづくり
** 正員、（有）環境とまちづくり（〒771-4501 徳島県勝浦郡上勝町福原川北 30 TEL08854-4-6290）
*** 正員、博（工）（有）環境とまちづくり（〒771-4501 徳島県勝浦郡上勝町福原川北 30 TEL08854-4-6290）
**** 学生員、徳島大学工学部（〒770-8506 徳島市南常三島町 2-1、TEL088-656-7350）
***** 正員、工博、徳島大学工学部（〒770-8506 徳島市南常三島町 2-1、TEL088-656-7350）
***** 国土交通省四国地方整備局小松島港湾・空港整備事務所（〒773-0001 小松島市小松島町新港 9-3、Tel: 08853-2-3357）
***** （財）港湾空間高度化環境研究センター（〒108-0022 港区海岸 3 丁目 26-1、TEL.06-5443-5382）

3. 小松島港におけるみなとまちづくりの事例分析

(1) 概要

重要港湾・徳島小松島港は、徳島港区と小松島港区に大別され、このうち小松島港区は、神田瀬川河口の小松島本港地区を中心に発展し、4万トン級岸壁を含む面積64ヘクタールを有する徳島県有数の港である。小松島港本港地区が立地する小松島市は、徳島市の南方10kmに位置する、人口43,000人、面積45km²の港湾都市である。

小松島港本港地区周辺立地としては、港の西方500m～1.0kmに小松島市市街地、西方1.0kmに国道バイパス、南方500mにJR線が位置する。小松島港本港地区の位置図を図2に示す。

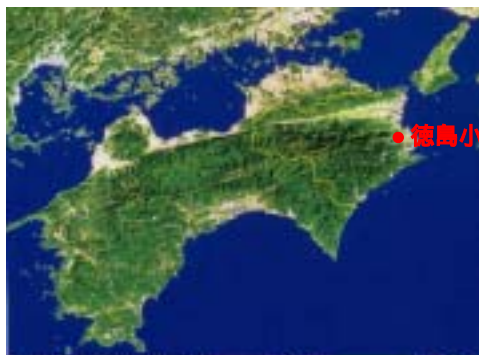


図2 徳島小松島港・小松島港本港地区位置図

小松島港本港地区では、平成11年のフェリー航路の移転に伴い旧ターミナル施設の遊休化に伴い、平成11年度より、国・県・市の合同事業である「小松島本港地区等活性化調査」において、市民・行政・専門家等の協働による「小松島港ワークショップ」を始め、市民参加型の「小松島港PCM」、「小松島港利用企画調査委員会」等の開催の後、「NPO準備会」、「有志の会」を経て、平成14年度に「特定非

営利活動法人 港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま（以下、「NPOこまつしま」と略記）が設立された。

小松島港におけるみなとまちづくりでは、みなと再生のプロセス区分における「第1期：再生ビジョン作成時」「第2期：再生活動立ち上げ時」の2つの区分について当てはめられる。

(2) 第1期概要

小松島港における、「第1期：再生ビジョン作成時」は、平成11年度～13年度の「NPOこまつしま」設立までの取り組みが挙げられる^{2、3}。第1期の取り組み経緯を図3に、取り組みの概要を表2に示す。

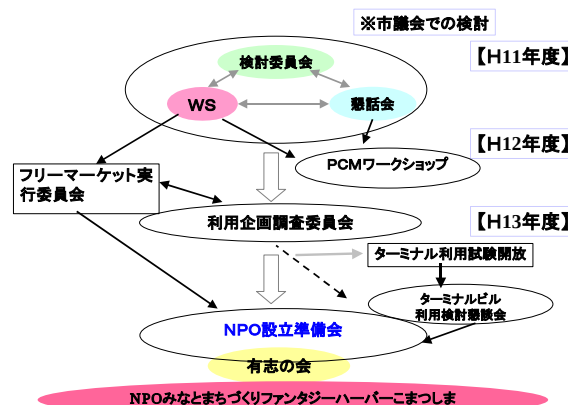


図3 第1期：再生ビジョン作成時の取り組み経緯

表2 取り組みの概要（第1期）

	取り組み名	回数	概要
平成11年度	●活性化検討委員会	3回	小松島港本港地区活性化の整備方針、整備計画の検討と策定を行う委員会
	●活性化懇話会	4回	小松島港本港地区活性化に向けた意見交換の会合
	●小松島港ワークショップ	5回	市民と行政の協働によりワークショップ方式で実施した小松島港本港地区活性化のための7ヶ月検討会議
平成12年度	●小松島港PCM	2回	学識経験者および専門家の発意により、PCM手法による小松島港の課題抽出、課題解決のための検討会議
	●フリーマーケット実行委員会	3回	小松島市が中心となって行っていた屋外フリーマーケットをWS、PCM参加者を中心とした参加と実践の場として実施した実行委員会
	●小松島港利用企画調査委員会	9回	WS、PCMを受けて、小松島港利用のための企画調査委員会を発足し、2年間に渡り実施した検討会議→ターミナルビルの試験利用を開始
平成13年度	●ターミナルビル利用懇話会	2回	遊休化したターミナルビルの有効活用を考える懇話会
	●NPO設立準備会	4回	ターミナルビル有効利用のための活動組織の設立準備のための検討会議
	●有志の会	6回	市民発意によるターミナルビル有効利用のための活動検討会議

(3) 第2期概要

小松島港における、「第2期:活動立ち上げ時」は、平成14年度の「NPOこまつしま」設立以降の取り組みが挙げられる。第2期の取り組み経緯を図4に、市民・行政協働の取り組みの概要を表3に示す。

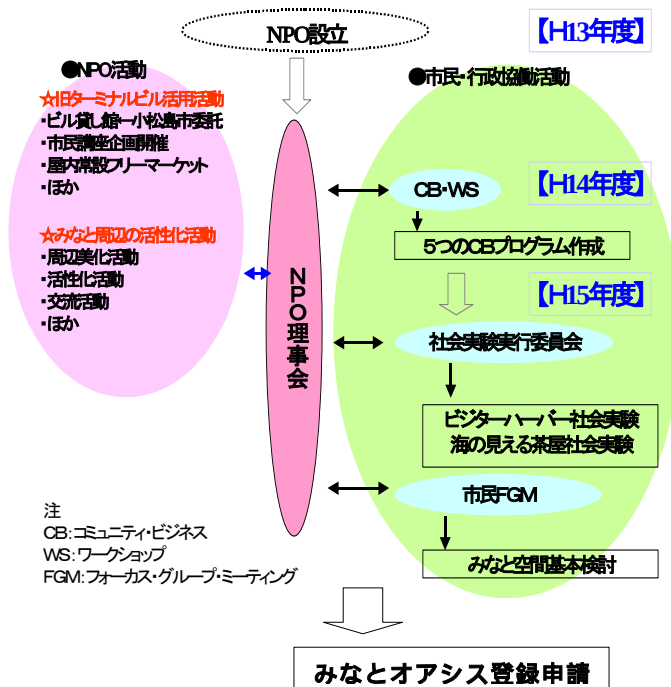


図4 第2期：再生活動立ち上げ時の取り組み経緯

表3 市民・行政協働の取り組みの概要（第2期）

	取り組み名	回数	概要
平成14年度	●みなとコミュニティビジネスセミナー＆ワークショップ	セミナー3回 WS3回	コミュニティビジネスセミナーの実施と、小松島港港地区の利活用のためのビジネスモデルの検討をWS方式で実施
	●小松島みなと交流センターkocoloの管理運営事業	通年	みなと交流センター(旧フェリーターミナル)の管理運営により、NPOこまつしまの活動人件費として充当
平成15年度	●ビジターハーバー社会実験	1回	コミュニティビジネスモデルの1つであったビジターハーバー事業を社会実験として実施
	●茶屋(カフェ)社会実験	通年	コミュニティビジネスモデルの1つであったカフェ事業を社会実験として実施
	●小松島港FGM(フォーカス・グループ・ミーティング)	2回	小松島港とその周辺地域の整備事業として、主立った市民の参加によるフォーカス・グループ・ミーティングにより周辺地域の整備プランの検討を実施
	●小松島みなと交流センターkocoloの管理運営事業	通年	みなと交流センター(旧フェリーターミナル)の管理運営により、NPOこまつしまの活動人件費として充当
	●みなと物産産直市	通年	コミュニティビジネスモデルの1つであった産直市事業を社会実験として実施

(4) 特徴分析

小松島港における「みなと再生プロセス」の特徴を表4に示す。また、「NPOこまつしま」設立時の理事・監事の構成とみなと再生の取り組みの関係を表5に示す。NPOの人材は、みなと再生の多様な取り組みの場から輩出していることがわかる。

表4 みなと再生プロセスの特徴

- ・ 継続した国・県・市の行政支援(事業支援)の存在
- ・ 継続した再生・活性化検討組織の存在
→ 情報の共有化、信頼関係構築、新たな人材確保に寄与
- ・ 継続した関係者連絡調整の場の存在
→ 異なる行政支援の調整、みなと再生戦略の共有化、信頼関係の構築に寄与
- ・ 継続した学識経験者の支援の存在
→ 合意形成における中間第三者としての役割、合意形成・PIプロセスの知見提供、再生戦略情報の提供
- ・ 継続的なPI・まちづくり専門家支援の存在
→ 合意形成・PIプロセスの知見の提供、再生戦略情報提供、関係者間コーディネート役割
- ・ 活動関係者は、多様なみなと再生プロセスの場より参画

表5 NPO役員とみなと再生の取り組み

	Si	De	Ka	Ta	Ya	Yu	Na	Ku	Sa	Su	Hi
	理事長	副理事長	副理事長	副理事長	理事	理事	理事	理事	理事	監事	監事
検討委					●	●			●	●	
懇話会						●				●	
WS・PCM			●		●		●		●	●	
利用企画調査委		●			●	●	●		●	●	
フリマ実行委員会		●	●								
ターミナルビル利用委・懇談会	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
NPO設立準備会	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
有志の会	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

4. みなと再生方策のフレーム

小松島港の事例分析によりみなと再生方策のフレームを、第1期・第2期・第3期ごとに、「再生ビジョンづくり」「再生活動」「計画」「行動」「調整」「修正」の視点から構築した。小松島港における、みなと再生方策を、第1期・第2期別に再生方策フレームにて整理して表6、表7に示す。

表 6 みなと再生方策の構成事例【小松島港・第 1 期】

フレーム			計画		行動					調整	修正	
再生方策の区分	再生方策の種別	再生方策の名称	現状把握・課題整理	モノづくり	プラン・仕組みづくり	利用・活動	人・組織づくり	維持管理	リスク管理	市民参加・行政参加	場づくり・企画	修正（チェック）
再生ビジョンづくり	会議体設置	全体審議会	●	●								
		個別関係者会議	●	●								
		ワークショップ	●	●						●		
		PCM(7月・外・外・外・外)	●							●		
		個別テーマ会議	●	●						●		
		活動実行委員会		●						●		
		ターミナルビル再生機会会議		●						●		
		活動組織運営会議		●						●		
		市民生計会議		●						●		
		連絡調整企画会議									●	●
	ビジョン作成	みなと再生ビジョンづくり			●							
		ターミナルビル再生ビジョンづくり			●							
		個別活動実施プログラムづくり			●							
		活動組織ビジョンづくり			●							
再生活動	個別活動	みなと活性化運動			●							
		ターミナルビル試験活用			●							
		活動組織設立・支援(NPO等)				●						

表 7 みなと再生方策の構成事例【小松島港・第 2 期】

フレーム			計画		行動					調整	修正	
再生方策の区分	再生方策の種別	再生方策の名称	現状把握・課題整理	モノづくり	プラン・仕組みづくり	利用・活動	人・組織づくり	維持管理	リスク管理	市民参加・行政参加	場づくり・企画	修正（チェック）
再生ビジョンづくり	会議体設置	活動組織運営会議（NPO理事会等）	●	●								
		CBワークショップ	●	●					●			
	市民FGM	●	●						●			
	信頼関係に基づくゆるい連携網										●	●
ビジョン作成		CBセミナー開催	●	●		●						
		CBプログラム：各種		●								
		みなと空間ランドデザイン構想		●								
		活動組織での活動計画（NPO等）										
再生活動	会議体設置	活動組織運営会議（NPO理事会等）	●	●						●	●	●
		社会実験実行委員会	●							●	●	●
	市民・行政協働活動	社会実験：ピスターハーバー	●	●	●	●	●	●	●	●		●
		社会実験：海の見える茶屋	●	●	●	●	●	●	●			●
		イベント：活き活き産直市				●						
	市民自主活動	旧ターミナルビル管理運営				●		●				
		市民NPO講座：各種				●						
		屋内フリーマーケット（常設）				●						
		屋外フリーマーケット（イベント）				●						
		環境美化活動				●						
		活性化活動：みなとコンサート				●						
		活性化活動：イルミネーション				●						
活性化活動：とれとれ産直市				●								

5. おわりに

今後、小松島港における「第 3 期：再生活動継続時」の取り組みにおいては、これまでの種々の再生方策の継続や、新たな再生活動展開の促進が求められている。現時点での、小松島港におけるみなとまちづくりの展望と課題を次に示す。

【展望】

- ・ みなとオアシス登録（平成 16 年 7 月予定）をもとに、交流・情報発信・地域連携等の面で、一層のみなと再生・活性化の取り組みの進展の期待
- ・ 教育分野等との新たな連携を含んだ、一層のみなと再生・活性化の取り組みの進展の期待
- ・ 人材育成・みなとまちづくりネットワークなどの、みなとまちづくりハウスとしての動的な取り組みの進展の期待

【課題】

- ・ みなと再生の継続的活動を実現するための方策の検討実施
- ・ みなと再生の中心的役割を担う「NPO こまつしま」の組織強化
- ・ 小松島市中心市街地の取り組みとの連携
- ・ 中期みなと再生プラン策定

また、平成 16 年 6 月に教育分野から小松島高校の参画を得て「小松島」地域が元気だ、学校も元気だ！活動会議が発足し、小松島みなとまちづくりは、市民・行政・専門家・NPO に加えて、教育関係者との連携の場が設けられ、新たな活動の局面を迎えている。

今後も、参加型社会資本整備の視点から、まちづくりにおける教育関係者を始めとする各関係者の役割の既知見⁴を参考にしながら、小松島港におけるみなとまちづくりに注目していきたいと考えている。

【参考文献】

- 1 澤田俊明：平成 15 年度みなとまちづくり研修・総括講義資料、国土交通省港湾局民間活力推進室、2004 年 2 月
- 2 松永昭博、澤田俊明、吉岡宏晃、山中英生：小松島港本港地区活性化に向けた市民参加型計画づくりの報告、土木計画学研究・講演集 24(1)、p.p.541-544、2001 年 11 月
- 3 山本道広、山中英生、澤田俊明：小松島港における市民参加型再活性化施策に関する考察、土木学会年次学術講演会講演概要集・Vol.57 (No.4) p.p.873-874、2002 年 9 月
- 4 花岡史恵、澤田俊明、上月康則、山中英生、湯佐昭二：教育関係者のニーズによる河川を利用した総合的な学習における河川関係者等の役割について、土木計画学研究・論文集、vol20・No.1、p.p.229-234、2003 年 9 月